

る練習をしましょう。日本語ではよく主語を省略するので、意識して主語から始めます。

否定疑問文の返事は間違いやすいので、日本人は慣れるまで要注意です。返事のYesとNoが日本語と真逆になります。例えば誰かが Windows のプログラムを Mac に使おうとして「Doesn't this program work on Mac?」と尋ねたとします。頭の中で英文和訳をしてしまうと「このプログラムはマックで動かないの?」となるので、日本語の答えは「はい、動きません」となります。しかし英語で答えるには「No, this program doesn't work on Mac」とNoで答えるからです。Yes やNoだけだと間違いやすいので、この例のように返事の意味を補足する文を後に付けると安全です。

また日本語ではよく「～だと思えます」という言い方をします。これは英語では不要な表現なので、通常は「I think」は付けません。あなたがしゃべることはすべてあなたが考えたことだからです。あえて付けると「あくまで個人的な意見だけど」という意味になります。普通は何らかの根拠があって言うわけですから「I think」は不要です。日本の「～だと思えます」に一番近いのは「I believe」です。これも毎回使う必要はありません。言い方が断定のように聞こえるのが嫌で

単に表現を柔らかくしたい場合は「I guess」が使えます。なお「仮定する」という意味には「suppose」を使います。

「～という場合はどうする」という話をするには「Suppose that ~」という具合に始めることができます。

Suppose that we have two more engineers in this team, what can we do to keep our project on schedule?

相づち

相手の言った事に相づちを打つ場合、日本語では「そうねえ」とか「なるほど」と返事しますね。英語だとこんな返事になります。

Let's see.

That makes sense.

Is that so?

Really?

You did.

Did you?

Of course!